

長崎北病院 伝言板 10月号

令和4年10月1日発行

10月。青く高い空。「いわし雲」「うろこ雲」が模様のように広がっている。秋天を切り分ける一筋の飛行機雲。秋の高気圧は大陸生まれ。水分が少ないので曇りなくすっきりと見えます。花粉などの不純物もなく青の光がよく届き空が青く見えるのです。秋の日は釣瓶（つるべ）落とし。晴れた日には、しばし空を眺めてみませんか。飽きませんよ。



「先行を選び テーブルの中心を抑える」

猛暑の夏から 一気に秋です。秋到来とともに コロナも急に減ってきました。減るのは嬉しいのですが 何故減ったのか専門家も分からないと言います。増える原因も減る要因も分からぬとなると気がつけばまた増えてきましたとなりそうです。ワクチンを接種し、基本的感染防御を行い、粛々と生活するしかないようです。中国でコロナが初めて発生したのが2019年12月、日本上陸が2020年1月。それから約3年。あらゆることが制限され、思うような活動が出来ない時期が続いてきました。会合、会食、旅行など出かける機会が大きく減りました。辞書を編む人が選ぶ新語でも「密、リモート、人流、おうち○○」などが入っています。密を避け、会合はリモートで。人流は減り、おうち飲みが増えました。確かに、新年会、忘年会などなど ○○会と名のつくものは絶滅。仲間内での飲み会も激減。無駄な時間とは言いませんが 飲み会や外出などに使っていた時間は大きく減ったはずです。その浮いた時間や家で過ごす時間をどう使ってきたか、何に使ったかと問われると言えませんが。コロナに追われ、コロナのせいにして何となくバタバタと時間が過ぎていたような気がします。空白の3年。



先日 世界一の投資銀行と言われる「ゴールドマン・サックス証券」に勤務し、現在は起業した会社の代表を務めている野原秀介氏の記事を読みました。ゴールドマン・サックス証券といえば世界を代表する金融機関です。新入社員でも年収は1000万を越え、部長となると数億と言われます。しかしその何十倍もの収益を上げなければ淘汰されるでしょう。優秀な人が集まってきます。入社試験も熾烈。書類審査で何千人から100名程度が選ばれ面接に挑みます。5名のグループで15分ずつ面接官の待つ部屋を次々と回るのだそうです。その結果で合否が決まります。ある質問が印象に残っているそうです。直径5センチ程度の丸いコースターが無限にあるとして、目の前の四角いテーブルに交互に置いていく。これ以上載らなくなった時点でも先に載らなくなったほうが負け。さてこのゲームで必勝法はあるかと問われたそうです。試験官の解説では答えは「ある」。先行を取り、一手目でテーブルの真ん中に置く。それ以後は相手が置いた位置と点対称（真ん中を挟んで反対の位置）に起き続けること。両者とも無限のコースターを持ち、どこにおいても良い。条件は一緒。しかしこのゲームで平等でないこと、対称でないこと。それは「テーブルの中心」です。「先行を選び テーブルの中心を抑えることが鍵を握ることに気づけば必勝法にたどり着ける」と試験官は言ったそうです。難しい話ですが、全ての人が平等に持っているようで平等に使っていないものは何か。それは「時間」。時間の流れを味方につけることが重要と言います。日常の仕事に追われて気がついたら1日が終わる事はよくある。そのような時はまず自分にとって重要な時間をまず確保する。残りの時間でその他の仕事を行う。また休日に自分の身になる事を行う事も良からう。時間だけは誰にでも平等に与えられている。それを少しでも自分の成長に投資して昨日よりも今日、今日よりも明日と常に自分を押し上げることで視野が広がる。成長のループに入ることができる。時間を上手に使う。人生の必勝法。言いたい事はわかるが大変。でも心に残る。まずは一手を打つことから。(A.S.)

